

令和4年度 政策研究成果発表会

彩の国さいたま人づくり広域連合では、県・市町村・企業・NPO及び大学等の協働による「産民学官・政策課題共同研究」を実施しています。様々な主体が集まり、埼玉の未来を共に考えています。

このたび、「令和4年度政策研究成果発表会」を開催しました。有識者による基調講演を行い、今年度の研究成果を発表しました。

1 日時：令和5年1月27日（金） 13：30～16：30

2 開催方法：オンライン開催（Zoom）

3 プログラム、講演者

（1）基調講演

「社会課題の解決につなげるナッジ」

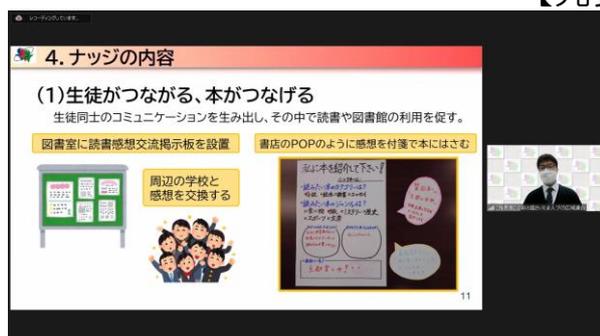
【講演講師】

佐々木 周作 氏（大阪大学 感染症総合教育研究拠点・特任准教授）

（2）産民学官・政策課題共同研究の成果発表

「ナッジ理論を活用した政策づくり」

【発表の様子】



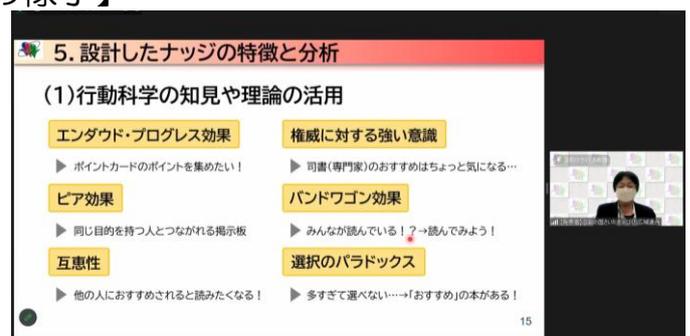
4. ナッジの内容

(1) 生徒がつながる、本が上がる
生徒同士のコミュニケーションを生み出し、その中で読書や図書館の利用を促す。

図書館に読書感想交流掲示板を設置 書店のPOPのように感想を付箋で本にはさむ

周辺の学校と感想を交換する

11



5. 設計したナッジの特徴と分析

(1) 行動科学の知見や理論の活用

エンダウド・プログレス効果
▶ ポイントカードのポイントを集めたい！

ピア効果
▶ 同じ目的を持つ人とつながれる掲示板

互惠性
▶ 他人におすすめされると読みたくなる！

権威に対する強い意識
▶ 司書(専門家)のおすすめはちょっと気になる…

バンドワゴン効果
▶ みんなが読んでいる！？→読んでみよう！

選択のパラドックス
▶ 多すぎて選べない…→「おすすめ」の本がある！

15

2. ナッジの目的と選考理由

運動ナッジが効きやすいターゲット像の仮説

仮説②
運動の習慣化プロセスは5段階に分けられ、いずれかの段階にボトルネックが存在する

運動を習慣化させるまでの行動プロセス（仮説）

ナッジで行動変容が見込める部分

4. ナッジの内容

～事前問診・当日編～

ナッジ案①：前年の結果って覚えてる？！

前年の数値を封筒の郵送物に同封する
数値は、スクラッチカードの形式で隠しておくと共に、一部はあたりが入っているようにする。

アンカリング効果
損失回避
カリブダ効果

1. ナッジのテーマ

環境への影響や倫理・道徳的観点からも社会課題と認識される「フードロス問題」に対し、多面的な行動変容の集積でロスの削減を図る。

フードロス問題でのナッジの活用は少ない？ → 問題が広範囲で多岐にわたる → 身近な問題

そして
大きな可能性と広がりが期待できる
チャレンジする価値は十分にある

4. ナッジの内容

(2) ナッジアイデア @食事中×飲食店

② 完食映え

SNSへの料理写真投稿時
"完食"写真の投稿も誘導

3. 調査と仮説(まとめ)

DXを知り、親しむこと → DXに日ごろから触れる、理解を深める、DXを身近に感じる → 自治体DXの推進

DXの成功体験を得ること → DXの取組みに対し、周囲からフィードバックが得られる → 自治体DXの推進

DXの情報を共有できること → DXの取組みを、職員間で展開する、取組み事例を共有し、貯める場を設ける → 自治体DXの推進

4. ナッジの内容

(2) 見込む効果

閲覧促進ナッジ → 興味・親しみを感ずる職員が増加

投稿促進ナッジ
エンターテインメント → 幅広い層の興味・関心の獲得、投稿数や閲覧数の向上
インタラクティブ → 投稿意欲アップ、新しいアイデアの創出

4 参加者数： 66団体 195名

【内訳】

- ・行政（県・市町村職員） 32団体 140名
- ・民間企業・NPO法人等 17団体 20名
- ・大学 7団体 8名
- ・その他 10団体 27名

◆たくさんの方にご参加いただき、誠にありがとうございました。